

糖尿病は歯周病を悪化させるといわれていますが、歯周病も糖尿病を悪化させることが近年の研究でわかってきました。

糖尿病はインスリンの作用が弱くなったり、膵臓からのインスリン分泌量が減少することで起きる、血糖値のコントロールがうまくいかなくなる病気です。日本人の場合、高カロリーの食事や運動不足による肥満などが主な原因となっています。

では、何故歯周病は糖尿病を、糖尿病は歯周病を悪化させるのでしょうか？ 歯と歯ぐきの境目にある歯周ポケットに歯周病菌が増殖すると免疫細胞である白血球が、それらを攻撃しに集まってきます。この時、白血球が歯周病菌の出す毒素に触れるとTNF α （アルファ）という物質を放出します。このTNF α は血液中のインスリンの働きを妨げる作用があります。つまり歯周病でTNF α を多く放出している場合、インスリンの働きが低下し糖尿病が進行してしまうことがあるのです。そして、糖尿病が進行すると当然、血糖値が高くなります。そうになると、今度は歯ぐきの毛細血管の血流が悪化し、血液が行き渡らず歯周病菌を攻撃できなくなりやすくなります。このため歯周病による歯ぐきの炎症が悪化するのです。歯周病が悪化すると、さらに多くのTNF α が放出され糖尿病もますます悪化するのです。

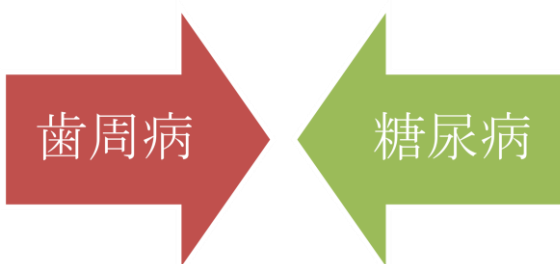


湯沢市・雄勝郡
歯科医師会

ホームページ：
<http://www.yutopia.or.jp/~yoda/>

ですから、糖尿病の人では、歯周病が悪化した途端に血糖値のコントロールが悪くなったり、インスリンを使用している人では、その投与量を倍増することもあるそうです。逆に歯科治療で歯周病が改善されてくると、インスリンの必要量も減ってくるそうです。

あなたは歯周病を放置していませんか？ 歯周病の症状がある人は、糖尿病でなくても糖尿病予備軍である高血糖の状態かもしれません。それに糖尿病の早期段階では自覚症状も乏しく、自分で糖尿病だと気づかないことも少なくないそうです。バランスの良い食事、適度な運動それに、歯周病予防が糖尿病予防につながるのです。



歯周病は糖尿病を進行させ、糖尿病は歯周病を進行させるのです。双方の予防が大事です。